

特別の教科 道徳 学びの会の参加者の意識調査(2)

沖林 洋平^{*1}・松岡 敬興^{*2}・森重 孝介^{*3}・久保田高嶺^{*4}・藤永 啓吾^{*5}

Attitudes of Participants in The Seminar on The Special Subject of Moral Education (2)

OKIBAYASHI Yohei^{*1}, MATSUOKA Yoshiki^{*2},
MORISHIGE Kosuke^{*3}, KUBOTA Takane^{*4}, FUJINAGA Keigo^{*5}

(Received August 6, 2021)

キーワード：特別の教科 道徳、教員研修、道徳の授業イメージ尺度

はじめに

山口大学教育学部附属学校では、「『特別の教科 道徳』学びの会」(以下、「学びの会」)と題する、教員や一般の教育関係者、教職を志す大学生等を対象にした研究会を継続的に行っている。この研究会は、平成30年度から小学校、平成31年度から中学校で、教育課程における道徳の時間が「特別の教科」化されることを踏まえて、平成29年度より発足した。これまでに過去11回実施し、7回は300人程度、8回はオンラインでの取組で400人程度の参加者が集まっており、学びの会に対する関心の高さを示している。令和2年度の活動状況として、9回からはオンラインの参加者を300人までとする人数制限をかけた。9回は270人程度、10回は230人程度、11回は240人程度となった。12回はオンラインアプリをWebexに変更した関係で140人となった。

研究会のテーマは、道徳科に関する授業づくりの基礎・基本や先人の生き方、ユニバーサルデザインを取り入れた考え方、現代的課題等、教職現場にある課題を広くカバーするものである。表1に、学びの会のこれまでの情報について、論文執筆時までわかっている情報を示した。

沖林ら(2020)では、学びの会のテーマの紹介と参加者の学びの会に対する意識の関係を分析した。沖林ら(2020)では、学びの会に対して、参加者は高い満足度を得ていること、参加に対する高い継続意志や情報共有の意識、会のテーマや内容の一般化(法定研修で行うことに対する希望)などを得ていることが明らかとなった。2020年度の3月に行われた調査では、これら項目に加えて、参加者の道徳の授業に対するとらえ方について尋ねることとした。小学校では、平成30年度から一部先行して実施されている「特別の教科 道徳」は、教育の内容や評価に関する考え方が改訂されている(文部科学省、2017)。このような、「特別の教科 道徳」の内容項目や評価の在り方については、学びの会でもたびたびテーマとして取り上げられており、改訂後の「特別の教科 道徳」の指導や評価の方法に関する現職教員のニーズの高さが示唆される。学びの会では、具体的に教材を取り上げ、森重や藤永、久保田による模擬授業を示したり、専門家を招聘して講演会を実施してきた。学びの会への参加者は、複数回の参加を重ねるものも少なくなく、100名以上の参加者を集める会を通年で年間3、4回実施している。本論文は、2020年度の3月の学びの会終了後に調査を行い、参加者の会に対する意識を尋ねることとした。

本研究では、昨年度までの調査に加え、道徳の授業イメージについて尋ねることとした。本研究では、学習指導要領等を参考にして、自作で項目を作成することとした。本研究で作成した項目の参加者の属性による比較を行うことも本研究の目的であった。

*1 山口大学教育学部小学校総合選修 *2 近畿大学工学部教育推進センター(前 山口大学教職大学院)

*3 宇部市教育委員会(前 山口大学教育学部附属山口小学校) *4 柳井市立柳井小学校(前 山口大学教育学部附属光小学校)

*5 山口大学教育学部附属光中学校

表1 学びの会のこれまでの開催スケジュールと講演者、講演内容

	日時	場所	講演者	テーマ
第1回	2017年 8月20日(日)	山口大学教育学部 附属山口小学校	森重孝介 藤永啓吾	道徳の教科化に向けて
第2回	2017年 11月5日(日)	山口大学教育学部 附属山口小学校	児玉典彦 坂本哲彦 森重孝介 藤永啓吾 久保田高嶺 中原育代	道徳科の授業づくり
第3回	2018年 1月28日(日)	山口大学教育学部 附属山口小学校	児玉典彦 坂本哲彦 森重孝介 藤永啓吾	明日からできる道徳の授業づくりの ポイント
第4回	2019年 2月9日(土)	山口大学教育学部 附属光中学校	鈴木克治 山田貞二 温品賢二 森重孝介 藤永啓吾 久保田高嶺	明日、道徳してみたいな♪
第5回	2019年 5月4日(土)	山口大学教育学部 附属山口小学校	児玉典彦 森重孝介 藤永啓吾 久保田高嶺	道徳って楽しいな♪
第6回	2019年 8月17日(土)	山口大学教育学部 附属山口中学校	森重孝介 藤永啓吾	道徳科と道徳教育
第7回	2020年 2月9日(日)	山口大学	永田繁雄 坂本哲彦 温品賢二 森重孝介 藤永啓吾	明日、道徳してみたいな♪
第8回	2020年 6月20日(土)	オンライン	坂本哲彦 森重孝介 温品賢二 藤永啓吾	おもしろ講義 小学校の模擬授業 おもしろ講義 中学校の模擬授業
第9回	2020年 8月8日(土)	オンライン	森重孝介 藤永啓吾 浅見哲也	オンライン授業Ⅰ オンライン授業Ⅱ こだわりの道徳授業
第10回	2020年 11月28日(土)	オンライン	久保田高嶺 森重孝介 鈴木賢一 丸岡慎弥 藤永啓吾 山田貞二	オンライン授業Ⅰ オンライン授業Ⅱ オンライン授業Ⅲ オンライン授業Ⅳ オンライン授業Ⅴ パネルディスカッション
第11回	2021年 3月6日(土)	オンライン	森重孝介 藤永啓吾 永田繁雄	オンライン授業Ⅰ オンライン授業Ⅱ 講演

2. 方法

2-1 調査時期

本研究は、2021年3月6日に実施された「特別の教科 道徳学びの会」終了後に行われた。

2-2 調査対象者

本研究の調査対象者は道徳学びの会参加者のうち回答が得られた133名であった。

2-3 材料

本研究では以下の質問項目を設定した。1. 性別 2. 職務年数 3. 所属校種 4. 専門性（1. 道徳、2. 教科、3. 生徒指導、4. マネジメント） 5. 参加回数 6. 学びの会参加に対する意識を尋ねる項目を尋ねた。項目は、これからも参加したい、次の開催を楽しみにしている、同僚に知らせたい、他教科の授業づくりに役立つ、幼小中高を選ばず役立つ、教育相談や生徒指導にも有効だ、法定研修で行われてもよい、「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりに役立つ、最新の教育の話題について知ることができる、であった。回答は7件法であった。7. 道徳の授業イメージに関する項目を尋ねた。項目の内容は、表8に示す。

2-4 手続き

本研究の調査は学びの会終了後に、参加者に回答用ウェブサイトのアドレスが示され、調査に回答したものはウェブサイトへアクセスして回答した。回答には5分程度を要した。

3. 結果

属性に関する質問項目の結果を示す。表2に性別と学校種のクロス集計表を示す。

表2 性別と学校種のクロス集計表

	男性	女性	合計
幼稚園	0	2	2
小学校	38	26	64
中学校	17	18	35
特別支援学校関連	2	7	9
教育委員会等	3	8	11
その他(大学生, 大学院生, 企業など)	2	4	6
合計	64	69	133

表3に性別と専門のクロス集計表を示す。

表3 性別と専門のクロス集計表

	男性	女性	合計
教科指導	32	27	59
生徒指導	5	9	14
特別支援関連	7	9	16
ICT 関連 (プログラミングを含む)	6	3	9
評価関連	3	1	4
マネジメント	9	10	19
その他	11	2	13
合計	64	69	133

表4に学校種と専門性のクロス集計表を示す。本研究では、参加者の道徳以外の教科指導を専門ととらえている参加者が172名中59名であった。参加者は男性が68名、女性が104名であった。

表4 学校種と専門性のクロス集計表

	幼稚園	小学校	中学校	高校	教育委員会等	その他
教科指導	0	32	20	1	5	1
生徒指導	0	8	3	2	0	1
特別支援関連	0	5	2	6	0	3
ICT 関連	0	4	0	0	2	3
評価関連	0	2	0	0	2	0
マネジメント	1	8	7	0	2	1
その他	1	5	3	0	0	3
合計	2	64	35	9	11	12

表5に学校種とこれまでの学びの会の参加回数のクロス集計表を示す。調査時に初めての参加だったものは、133名中の54名(41%)であった。

表5 学校種と参加回数のクロス集計表

	1	2	3	4	5回以上	合計
幼稚園	0	0	2	0	0	2
小学校	29	13	12	8	2	64
中学校	13	3	11	4	4	35
特別支援学校関連	3	1	1	2	2	9
教育委員会等	4	3	0	4	0	11
その他(大学生, 大学院生, 企業など)	5	2	2	3	0	12
合計	54	22	28	21	8	133

表6に専門と職務年数のクロス集計表を示す。20年以上という回答をしたものが73名(55%)であった。

表6 専門と職務年数のクロス集計表

	-1	4から9	10から19	20-	合計
道徳	5	14	13	27	59
教科	1	2	4	7	14
生徒指導	4	2	1	9	16
マネジメント	1	1	2	5	9
その他	2	0	4	6	12
合計	14	19	27	73	133

表7に学びの会に対する意識に関する質問項目の回答についての平均値、標準偏差、中央値を示す。得られた要約統計量は男女別に示している。

表7 「学びの会」に対する意識に関する質問項目の平均値、標準偏差、中央値

項目	性別	平均値	標準偏差	中央値
Q2-1 学びの会にはこれからも参加したいと思う	女性	6.53	0.82	7.00
	男性	6.64	0.80	7.00
Q2-2 学びの会の次の開催を楽しみにしている。	女性	6.56	0.79	7.00
	男性	6.64	0.73	7.00
Q2-3 学びの会のことについて同僚に知らせたい	女性	6.14	1.07	7.00
	男性	6.30	1.00	7.00
Q2-4 学びの会の内容は道徳以外の教科の授業づくりに役立つ	女性	5.84	1.36	6.00
	男性	6.13	1.11	6.00
Q2-5 学びの会の内容は幼小中を選ばず役立つ	女性	5.92	1.15	6.00
	男性	6.03	1.18	6.00
Q2-6 学びの会の内容は教育相談や生徒指導にも有効だ	女性	5.69	1.42	6.00
	男性	5.64	1.27	6.00
Q2-7 学びの会の内容が法定研修で行われてもよい	女性	5.86	1.23	6.00
	男性	5.65	1.40	6.00
Q2-8 学びの会の内容は「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりに役立つ	女性	6.39	0.81	7.00
	男性	6.51	0.96	7.00

表8に、道徳の授業のイメージについて尋ねた項目の回答の平均値、標準偏差、中央値を示す。

表8 男女別の道徳の授業イメージの平均値、標準偏差、中央値

項目	性別	平均値	標準偏差	中央値
Q3-1 道徳の授業は児童生徒が自らの価値を発見する時間である	女性	5.58	0.66	6.00
	男性	5.54	0.80	6.00
Q3-2 道徳の授業は児童生徒自身の問題を仮説検証や試行錯誤によって授業の課題を解決する時間である	女性	4.59	1.15	5.00
	男性	4.64	1.29	5.00
Q3-3 道徳の授業の時間では教科書や教材の内容を正しく伝えることが最も重要である	女性	2.91	1.31	2.50
	男性	2.80	1.28	3.00
Q3-4 道徳の授業でも情報モラルやLGBTの理解などの現代の社会的問題の理解を深めることができる時間である	女性	5.16	0.82	5.00
	男性	4.90	1.19	5.00
Q3-5 他教科で学んだことを道徳の授業に生かす時間である	女性	4.30	1.11	4.00
	男性	4.59	1.19	5.00
Q3-6 道徳の授業で扱う内容にはそれぞれの授業で唯一の正しい答えがあると思う	女性	1.84	1.29	1.00
	男性	1.77	1.00	2.00
Q3-7 授業で取り上げる道徳的価値は児童生徒の生き方の自覚とは関係ない場合もある	女性	2.59	1.47	2.00
	男性	2.68	1.48	3.00

表9に道徳の授業イメージに関する項目の相関係数を示した。

表9 道徳の授業イメージの相関係数

	Q4-1	Q4-2	Q4-3	Q4-4	Q4-5	Q4-6	Q4-7
Q4-1	-						
Q4-2	0.38 ***	-					
Q4-3	0.19 *	0.39 ***	-				
Q4-4	0.32 ***	0.22 **	0.08	-			
Q4-5	0.16	0.28 ***	0.26 **	0.38 ***	-		
Q4-6	-0.03	0.22 *	0.49 ***	-0.07	0.2 *	-	
Q4-7	-0.21 *	0.01	0.14	-0.05	0.07	0.49 ***	-

Note. * $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

表10に道徳の授業イメージに関する項目の因子分析結果を示した。表10には因子負荷量を示した。

表10 道徳の授業イメージの因子分析結果

	F2	F1	共通性
Q4-7 授業で取り上げる道徳的価値は児童生徒の生き方の自覚とは関係ない場合もある	0.72	-0.14	0.49
Q4-6 道徳の授業で扱う内容にはそれぞれの授業で唯一の正しい答えがあると思う	0.71	0.17	0.44
Q4-2 道徳の授業は児童生徒自身の問題を仮説検証や試行錯誤によって授業の課題を解決する時間である	0.06	0.71	0.48
Q4-1 道徳の授業は児童生徒が自らの価値を発見する時間である	-0.25	0.58	0.64
Q4-5 他教科で学んだことを道徳の授業に生かす時間である	0.14	0.36	0.84

道徳の授業イメージ調査の得られた結果について、沖林（2020）を参考にして、F1を、道徳の授業に対する「創造的、学習者主体的」イメージと呼ぶこととした。F2を道徳の授業に対する「収束的、学習内容主体的」イメージと呼ぶこととした。

道徳の授業に対する「創造的、学習者主体的」イメージ因子と道徳の授業に対する「収束的、学習内容主体的」イメージについて、それぞれの平均値と標準偏差、因子間の相関係数を算出し、表11に示した。

表11 道徳の授業イメージの因子別の平均値、標準偏差、中央値

	平均値	標準偏差	中央値
「創造的、学習者主体的」イメージ	4.87	0.76	5.00
「収束的、学習内容主体的」イメージ	2.22	1.13	2.00

表12に、道徳の授業イメージの因子について、男女別の平均値、標準偏差、中央値を示す。

表12 道徳の授業イメージの男女別の平均値、標準偏差、中央値

		平均値	標準偏差	中央値
「創造的、学習者主体的」イメージ	女性	4.82	0.74	5.00
	男性	4.92	0.77	5.00
「収束的、学習内容主体的」イメージ	女性	2.22	1.20	2.00
	男性	2.22	1.07	2.00

表13に道徳の授業イメージの因子について、職務年数カテゴリ別の平均値、標準偏差、中央値を示す。

表13 道徳の授業イメージの職務年数カテゴリ別の平均値、標準偏差、中央値

	職務年数カテゴリ	平均値	標準偏差	中央値
「創造的、学習者主体的」イメージ	1年以下	5.07	0.68	5.00
	10年未満	4.84	0.51	5.00
	20年未満	4.90	0.79	5.00
	20年以上	4.84	0.81	5.00
	1年以下	2.71	1.46	2.50
「収束的、学習内容主体的」イメージ	10年未満	1.92	1.04	1.50
	20年未満	2.41	1.32	2.00
	20年以上	2.14	0.98	2.00

表14に道徳の授業イメージの因子間相関を示した。

表14 道徳の授業イメージの因子間の相関係数

		Moral F2	Moral F1
Moral F1	<i>r</i>	0.09	—
	<i>p</i>	0.308 **	—

Note. * $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

図1に道徳の授業イメージの因子間の散布図を示す。

道徳の授業イメージについて、道徳の授業イメージの因子を参加者内要因、回答者の職務年数カテゴリを参加者間要因とする2要因分散分析を行った。その結果、因子の主効果は有意 ($F(1, 129)=367.00$, $p < .01$, $\eta^2 p=.74$)、勤務年数カテゴリは有意ではなかった ($F(3, 129)=1.89$, ns, $\eta^2 p=.04$)。2要因の交互作用は有意ではなかった ($F(3, 129)=1.89$, ns, $\eta^2 p=.04$)。各条件における平均値と誤差を図2にプロットした。

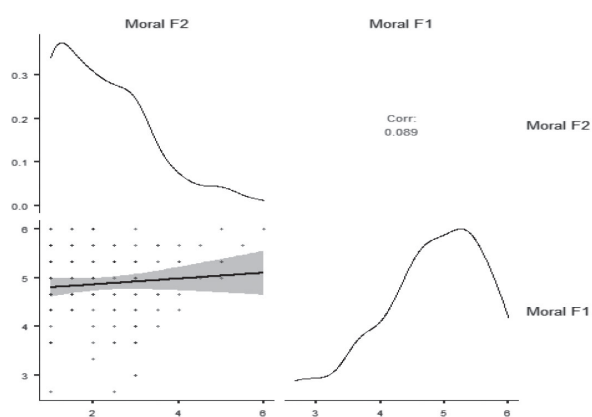


図1 道徳の授業イメージの因子別散布図

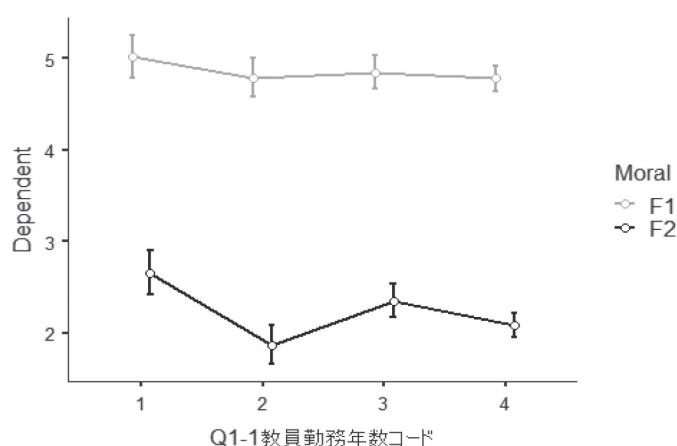


図2 職務年数カテゴリにおける道徳の授業イメージの因子別の平均値

4. 考察

本研究では、特別の教科 道徳「学びの会」の参加者に対する調査を行い、学びの会に対する意識や満足度の調査を行った。調査の結果、以下のことが明らかとなった。2019年度の調査(沖林ら、2020)でも示されたように、2020年度の調査でも、参加者の学びの会に対する高い参加意識や満足感が示された。このことは、学びの会に対するニーズが一過性のものでなく、一般性を持つものである可能性を示唆するものである。今後は、参加者の満足感に関する質的分析を行うことや、運営者や外部講演者に対する学びの会の運営方針に関するインタビュー調査などを行うことにより、満足感の質的な側面に焦点を当てた分析を行うことが望まれる。

本研究では、参加者の道徳の授業イメージを尋ねた。得られた回答について、因子分析を行った結果、「創造的、学習者主体的」イメージと総称できる因子と「収束的、学習内容主体的」イメージと総称できる因子の2因子構造を見出した。「創造的、学習者主体的」イメージは、道徳の授業は児童生徒自身の問題を仮説検証や試行錯誤によって授業の課題を解決する時間である、道徳の授業は児童生徒が自らの価値を発見する時間である、他教科で学んだことを道徳の授業に生かす時間であるといった、児童生徒のアイデンティティや自我関与を重視したり、他教科との関連を重視する項目によって構成される因子である。すなわち、

改訂された学習指導要領における内容項目で重要度が高い内容を重視したり、いわゆる他教科との関連づけなどの深い学びを重視する道徳の授業イメージであると考えられる。「収束的、学習内容主体的」イメージは、授業で取り上げる道徳的価値は児童生徒の生き方の自覚とは関係ない場合もある、道徳の授業で扱う内容にはそれぞれの授業で唯一の正しい答えがあると思う、といった授業における収束的な解答を求めたり、授業内容における唯一の正解を求める態度であると考えられる。「収束的、学習内容主体的」イメージは、回答における平均評定値は2.22、中央値が2であったことを踏まえると高く意識されている因子ではないことがわかる。分散分析の結果、2要因の交互作用は有意ではなかった。ただし、単純効果検定においては、「収束的、学習内容主体的」イメージは職務年数カテゴリの効果が有意傾向であった($F(3, 258)=2.387$, $p=.69$)。本調査において、「収束的、学習内容主体的」イメージで高い評定値を得ていたのは職務経験1年以下のカテゴリであり、参加者の割合としては10%程度であった。有意でなかった理由の一つとして、1年以下の割合の少なさを考えることもできる。本調査で得た結果によって、道徳の授業イメージにおける世代間比較を行う必要性があることが示された。

参考文献

- 文部科学省 (2017) : 「小学校学習指導要領(平成29年度告示)解説」 特別の教科 道徳編.
- 沖林洋平 (2020) : 「授業場面に対応した児童生徒の思考や教育的支援および介入の関連」, 『山口大学教育学部研究論叢』69, 7-12.
- 沖林洋平・松岡敬興・森重孝介・上川里穂・久保田高嶺・藤永啓吾 (2020) : 「「特別の教科 道徳 学びの会」参加者の意識調査」, 『山口大学教育学部附属教育実践総合センター紀要』50, 11-18.